



安浦から世界へ発信

## 被爆証言と被爆建物の保存に献身

内海在住の中西巖さん(85才)は、15才の時に広島で被爆。あの日生き残った者の使命を強く感じ、69才からヒロシマピースボランティアを経て、70才で被爆体験証言者として登録、戦争と原爆の無い世界を目指し、広く活動してきました。

現在は、被爆体験を証言されながら、伝承者の育成や、旧広島陸軍被服支廠の保全を願う懇談会代表として、建物の保存活動もしています。現在被爆証言は680回を数え、伝承者も9名が育っています。今後の目標は、証言700回と、保存が決まった建物に耐震対策を施し、平和活動に利用しながら未来につなぐこと。  
安浦友愛大学の陶芸教室に参加されるなど、多方面で活動されている、とても魅力的な方でした。



広島市南区出汐2丁目に残る、旧陸軍被服支廠の建物



生涯現役

## 朝市の看板おばあちゃん

大正10年生まれ93才の中村スギエさんは、毎週木・日曜日に開かれる下垣内地区の朝市で売り子をしています。自家栽培の野菜の他、取材時にはフキ、セリ、ワラビなどの山菜を並べ、開店準備に余念がありませんでした。

「孫の真太郎に手伝ってもらいレンコンの植え付けをしたよ」と、畑仕事も現役。病気とは無縁で、根っから丈夫な体をお持ちの朝市の看板おばあちゃんです。元気の秘訣は「くよくよ考え事をしない、疲れたら手を抜くこと」と、大先輩からのアドバイス。下垣内朝市ファンの常連さんと楽しそうに話す、スギエさんのほっこりした笑顔が印象的。何より、この場所に元気の源がありエネルギーが湧くのかもしれないと感じられる気持ちの良い朝市です。

スギエさんと真太郎くん



気持ちの良い、下垣内の朝市

## 「安浦駅ふれあいステーション」完成

町内を走る生活バス利用者から、安浦駅前でバスを待つ間、ベンチも屋根も無く不便だとの声が多く寄せられていました。

この度、呉市からの助成金を活用した「まち普請事業」により、まちづくり協議会のメンバーが汗を流して、屋根のあるベンチと掲示板を備えた「ふれあいステーション」を完成させました。バス待ちにご利用ください。また、利用しやすい生活バスの時刻表を作成し、全戸に配布しました。あわせてご利用ください。

安浦駅前の歩道付近は、自転車・バイクの駐輪が規制されています。歩行者や車イス利用者が困っていますので、付近の無料駐輪場を利用してください。



皆で力を合わせて作りました



完成した「ふれあいステーション」

### 安浦町まちづくり協議会 平成27年度 事業紹介

まちづくり協議会では今年度も様々な事業を展開していきます。興味のある方は、ぜひご参加ください。

- ・広報誌の発行：広報誌「TANTO」を年4回発行
- ・まちしるべ石碑事業：内海地区の地名、史跡を記入した石碑の設置とガイドブックの作成
- ・伝統文化継承事業：とんどや盆踊りなど、伝統文化継承や、行事を通して世代間交流のサポート
- ・ええとこ村プロジェクト事業：休耕田を活用し、農業を通しての事業や新たなブランド開発の展開
- ・人材育成研修：一般参加型のフィールドワーク、先進地視察の実施
- ・グリーンカーテン運動：公衆衛生推進協議会と共同で、ゴーヤの苗を配布
- ・エコツーリズム活動：公衛協と共同で、自然観察会等を通し、環境保護活動を実施
- ・フォトコンテスト：呉線全通80年等を記念して、川尻町まちづくり委員会とともにフォトコンテストを実施
- ・ホームページ運営：ホームページやブログを通して、旬な情報を提供

平成26年度 まちしるべ事業 三津口と中央ハイツに完成

## へへ、そうだったのか! 地名の起こり

まちづくり協議会がはじめた「まちしるべ石碑事業」。字名、地域に伝わる歴史・文化・特徴・地名の由来等を石碑に刻み、後世に残す事業も3年目を迎え、平成26年度は三津口地区5ヶ所と中央ハイツが完成しました。地元の人のリードで歴史探訪し、碑文を考え、皆さんといっしょに据え付けました。

三津口地区は古くから開け、民話や逸話も多く残っています。干拓がすすんだ地域で、住居表示が〇丁目〇番地となった現在、歴史を思い出すきっかけとなる記念碑です。

左の図は、安浦町時代の字名配置図です。こんなにたくさんの地名が、あったんですね。



①古新開【晴海園自治会館】



②三津口中央部【三津口憩いの家】



③子之浦【子之浦自治会館】



④深之浦【三幸食品倉庫西】



⑤水尻【水尻自治会館】



⑥三ヶ峠【中央ハイツ 中央公園】

## おでかけ情報

6月	いなし安浦青空市	6月20日(土) 8:00~	いなしふれあい広場	8月	きらめき音楽館	8月8日(土) 11:00~	きらめきホール
	ドリーミングファミリーコンサート	6月28日(日) 15:00~	きらめきホール		いなし安浦青空市	8月15日(土) 8:00~	いなしふれあい広場
7月	きらめき音楽館	7月11日(土) 11:00~	きらめきホール	9月	きらめき音楽館	9月12日(土) 11:00~	きらめきホール
	ビーチ、プール開業	7月18日(土)	グリーンピアせとうち		いなし安浦青空市	9月19日(土) 8:00~	いなしふれあい広場
	いなし安浦青空市	7月18日(土) 8:00~	いなしふれあい広場		安浦地区敬老会	9月20日(日) 13:00~	きらめきホール

# 安浦の中国自然歩道を歩こう!

～ 野呂山ルート その2 ～



馬の背展望台から安浦方面を望む



前回は野呂山ルートを「三本松公園」まで案内しました。その続きを歩きましょう。三本松公園からは未舗装の登山道が続いていますが、災害の影響で途中足もとが悪くなっています。今回は、遠回りですが、「馬の背」まで舗装された林道で上りましょう (2.0km、徒歩 30～40分)。展望台から、安浦の町と海の素晴らしい眺望が楽しめます。ここからは厳しい登山道で、「仁王門」を経て「弘法寺」に向います。途中「野呂山伊音城八十八ヶ所」の札所や「玉すだれの滝」を経由しても40～50分で到着、寄り道をおすすめします。「野呂山ルート」は、氷池、十文字ロータリーを経て広二級峡まで続きますが、今回は、野呂山の自然と展望を満喫し、「かぶと岩園地」から安芸川尻駅まで下ります。このコースも中国自然歩道の一部、自然を感じながら下山しましょう。



弘法寺本堂



かん千音岩札所

## ホタルの里・安浦、いつまでも



盛川酒造前の野呂川を飛び交うホタル

小さな光を放つ

ホタル。初夏の宵、野呂川流域など安浦の河川でホタルが飛び交います。日本には、ゲンジボタル、ヘイケボタルの他にも約50種類が確認されています (全てが光るわけではありません)。

ホタルは「完全変態 (卵→幼虫→蛹→成虫)」をする昆虫、初夏に飛び交うゲンジボタルは交尾後、水面近くのコケに産卵します。ふ化した幼虫は水中で過ごし、餌は巻き貝のカワナナ、貝の肉を消化液で溶かし、すするようにして食べます。何回か脱皮して翌春上陸、土の中で蛹になり羽化します。成虫はほとんど何も食べず、葉の露を飲む程度です。

安浦でいつまでも飛び続けられるよう、多様な環境を守っていききたいですね。微妙な“ゆらぎ”があるホタルの光は、脳波に働きかけ、心をリラックスさせる効果があるそうです。うちわ片手にホタル見物、癒やされにでかけてみませんか。

安浦でホタルが見られるのは、5月末から6月中旬



呉線全線開通 80年  
電化 45年記念

### 鉄道のある風景 フォトコンテスト 作品募集!

呉線は今年、全線開通80年、電化45年の節目の年を迎えます。そこで、安浦町まちづくり協議会と川尻町まちづくり委員会が共同で、「I♥ (アイラブ) 呉線・鉄道のある風景フォトコンテスト」を実施、只今作品募集中です。

募集方法などは、安浦市民センターなどに置いてあるチラシをごらんいただくか、安浦町まちづくり協議会ホームページ・「やすうら夢工房」 (<http://yasuura-yumekobo.com>) にアクセスしてください。そのほかお問い合わせは、安浦市民センター 安浦町まちづくり協議会までお願いします (Tel 0823-84-2261)。



おしゃれの店 **マルミツ**  
安浦町内海南1丁目6-26 ☎84-2010

まちの  
ファッションリーダー



マルミツ全景



マルミツの前身「安浦物産」昭和39年頃



明美さん

靖さん

清子さん



エステルーム



人気のショーウィンドウ

マルミツは元々青果業「安浦物産」を営んでおり、本業とは別に、先代上田満さんの妻である明美さんにより、昭和40年に開業されました。商売をするにあたり、当時使用していた化粧品が気に入り、みんなに使ってもらいたいという思いから化粧品店を開店。以来、扱う商品を徐々に増やし、現在はレディースファッションから紳士服まで扱う「おしゃれの店」に。

店名の由来は先代の名前、「満 (みつる)」の「みつ」を屋号に。平成元年店舗を拡張移転、15年に息子の上田靖さんに代表を交代し、17年にはエステルーム増設と発展。「お化粧品だけでなく、今はリラクゼーション込みでお客様の満足度を高める時代です」と靖さんと奥さんの清子さん。「商品も変化している。地域の皆さんにいろいろ試してもらいたい。地域に密着しながら、広くグローバルに、存在感のある店にしたい」と、抱負を語る上田さんご夫妻です。

### 写真でみる今と昔

## 安浦アーカイブ

農業

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。懐かしい風景をご覧ください。

### 女子畑

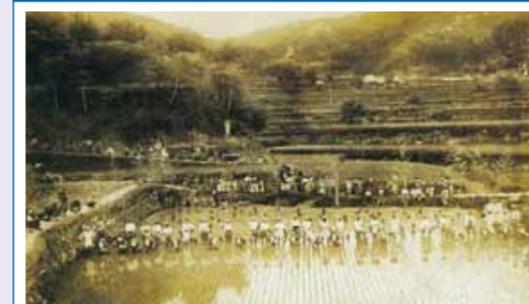


地域の女性が協力しあいながらの田植え。農作業にはまだ牛が活躍していた。  
【昭和40,41年】  
写真提供 女子畑 森吉美樹登さん



山の稜線と電柱は当時と同じ。作業の省力化と機械化がすすんだ。

### 中畑



「写真集 いなしの軌跡」からこの年、天皇陛下への献上米作付けのため、地域をあげて特別な田植えが行われた。  
【昭和3年】



中畑の東貞雄さんの田では、おいしい米をつくる営みが、今も続けられている。